

思修館プログラム第1期履修生が、プロジェクトベースラーニング（PBL）の一環として国際シンポジウム「ロシアのエネルギー資源と持続可能性」を開催しました。

シンポジウムでは、最初にヤルナゾフ・ディミター 総合生存学館教授が開会挨拶を行い、その後、山脇博士後期課程学生が本シンポジウムの背景と趣旨説明を行いました。続く第1セッション「Energy Resources in Russia: In a Domestic Context」では、オールドフィールド・ジョナサン バーミンガム大学地理地球環境科学部准教授より、「Russia's Move towards Sustainability」と題して、ソビエト・ロシアにおける持続可能性、とりわけ気候変動を巡る議論の包括的分析の報告、篠原建仁 株式会社国際石油開発帝石経営企画本部シニアアナリストより「Rosneft - A Gigantic State Company in a Transition Period」と題して、ロシア国営石油企業ロスネフチの行動様式や今後の発展見通しについての報告、山脇博士後期課程学生より「Efficient use of energy resources and its hindrances in Russia」と題した報告および、ロシアのエネルギー資源の利用状況やその効率性の国際的水準との乖離について指摘がありました。

続く第2セッション「Energy Resources in Russia: In an International Context」では、高橋美佐子 外務省経済局経済安全保障課課長 より、「Changing Global Energy Landscape and Low-oil Price Environment-Implications for Russia」と題して、国際的な油価低迷がロシア経済、他国のエネルギー安全保障に与える影響について報告、田畑伸一郎 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター長より、「Economic Development of the Arctic Regions of Russia, Based on Oil and Gas Production」と題した報告に、膨大な資源ポテンシャルを有するロシア北極圏地域の炭化水素資源開発に関わる経済成長経路と地域コミュニティへの影響が指摘、メリキナ・アンナ モスクワ国際関係大学学生 と中岡大記 京都産業大学学生より、「Energy Relations between China and Russia: A Focus on Belt and Road Initiative」と題して、ユーラシア地域におけるグローバルな多国間エネルギー政策について報告がありました。両セッションともに、公式討論者としてそれぞれ2名（第1セッション：ディミター 教授、田中勇伍 総合生存学館博士前期課程学生、第2セッション：ゴルシコフ・ヴィクトル 開智国際大学リベラルアーツ学部准教授、小林周 慶応大学政策・メディア研究科博士後期課程学生／グローバル環境システムリーダープログラム1期生）がコメント・質疑応答を行いました。

続くラウンドテーブルでは、「Energy Resources and Sustainability in Russia: Where is Russia headed?」を統一課題とし、上記セッションの報告者・討論者が登壇しました。山脇博士後期課程学生がモデレーターを務め、経済制裁下のロシアにおけるエネルギー資源開発の可能性、COP21を受けたロシアの環境問題・政策の動向、ロシアと日本のエネルギー協力の見通し、そしてロシアが持続可能な発展を達成するために必要な条件等、さまざまな議題について議論しました。議論・質疑応答は終了予定時刻を超えてもなお止まらず、非常に白熱したものとなりました。

最後に統括・閉会の挨拶として、溝端佐登史 経済研究所副所長／ロシア・東欧学会長が、産官学連携型である本シンポジウムの学術面での理論・実証的貢献について、また地域研究や社会・政策への貢献についても言及しました。その後、総合司会の藤田萌 総合生存学館博士前期課程学生の案内で、ネットワーキングレセプションが行われ、会場を移して引き続き議論や人的交流が続けられました。



ディミター教授の開会挨拶



第1セッション



田中博士前期課程学生の質疑応答



第2セッション



総合司会を行う藤田博士前期課程学生



ネットワーキングレセプション